

令和 7 年 度

八代市議会総務委員会記録

審 査 ・ 調 査 案 件

1. 3月定例会付託案件 1
-

令和 8 年 2 月 2 0 日 (金曜日)

総務委員会会議録

令和8年2月20日 金曜日

午前11時00分開議

午前11時39分閉議（実時間39分）

○本日の会議に付した案件

1. 議案第1号・令和7年度八代市一般会計補正予算・第13号（関係分）

○本日の会議に出席した者

委員長 木村博幸君
副委員長 大倉裕一君
委員 金子昌平君
委員 たみみ一君
委員 西和明君
委員 橋本貴喜君
委員 蓑田由貴君

※欠席委員 君

○委員外議員出席者中発言の許可を得た者

君

○説明員等委員（議）員外出席者

財務部長 松川由美君
財務部次長 角田浩二君
財政課長 草西亮介君
総務企画部
企画政策課長 浅川公利君
地域政策課長 松本亨君

○記録担当書記 右田理絵君

（午前11時00分 開会）

○委員長（木村博幸君） それでは、定足数に達しましたので、ただいまから総務委員会を開会いたします。

本日の委員会に付します案件は、さきに配付してあります付託表のとおりであります。

◎議案第1号・令和7年度八代市一般会計補正予算・第13号（関係分）

○委員長（木村博幸君） それでは、予算議案の審議に入ります。

議案第1号・令和7年度八代市一般会計補正予算・第13号中、当委員会関係分を議題とし、歳入等及び歳出の第2款・総務費について、財務部から説明願います。

○財務部長（松川由美君） 皆様、こんにちは。（「こんにちは」と呼ぶ者あり）財務部松川でございます。本日はよろしくお願ひいたします。

それでは、本日、総務委員会に付託されました予算議案1件、議案第1号・令和7年度八代市一般会計補正予算・第13号関係分につきまして、角田財務部次長及び浅川企画政策課長が説明いたしますので、よろしくお願ひします。

○財務部次長（角田浩二君） 皆さん、こんにちは。（「こんにちは」と呼ぶ者あり）財務部の角田でございます。よろしくお願ひいたします。それでは失礼をいたしまして、着座にて御説明をさせていただきます。

○委員長（木村博幸君） どうぞ。

○財務部次長（角田浩二君） それでは、議案第1号・令和7年度八代市一般会計補正予算・第13号をお願ひいたします。

1ページをお願ひいたします。

まず、第1条、歳入歳出予算の総額でございますが、歳入歳出それぞれ14億8630万円を追加し、補正後の総額を歳入歳出それぞれ891億4930万円としております。

また、第2条で繰越明許費の補正をお願ひしておりますが、内容につきましては3ページをお願ひいたします。

まず、第2表、繰越明許費補正でございます。款2・総務費の買い物支援事業者支援事業

(重点交付金) から、款6・商工費のLPガス価格高騰対策支援事業(重点交付金)まで、全て本予算成立後に着手いたしますが、年度内の事業完了が困難となることから、繰越明許費を設定するものでございます。

それでは、まず、歳入を御説明いたします。

7ページをお願いいたします。

上段の表、款15・国庫支出金、項2・国庫補助金、目1・総務費国庫補助金、節1・総務管理費補助金で、物価高騰対応重点支援地方創生臨時交付金で14億3030万円を追加しております。これは、エネルギー食料品価格の物価高騰の影響を受けた生活者や事業者支援のため、地域の実情に応じ、きめ細やかに必要な事業を実施するための国庫支出金でございます。

下段の表、款16・県支出金、項2・県補助金、目5・商工費県補助金、節1・商工費補助金では5600万円を追加しております。これは、エネルギー価格高騰が継続していることから、引き続き経済的負担を受けているLPガス利用世帯の負担軽減を図るため、県LPガス協会を通じて当該価格高騰分の一部を補助するLPガス価格高騰対策支援事業(重点交付金)に係る県支出金でございます。

以上が歳入の御説明となります。

続きまして、歳出のうち、総務費を御説明いたします。

8ページをお願いいたします。

上段の表、款2・総務費、項1・総務管理費、目5・企画費は、買い物支援事業者支援事業(重点交付金)として100万円を追加しております。これは、市内において買物が困難な状況にある市民に移動販売を実施する事業者に対し、安定的な事業運営が図られるよう、物価高騰に伴う事業者の負担を軽減し、事業継続を支援するものでございます。

次の目7・交通防犯対策費は、五家荘地域自家用有償旅客支援事業(重点交付金)として6

6万3000円を追加しております。これは、五家荘地域の自家用有償旅客運送ごかぐるまの運行に係る物価・エネルギー価格高騰に伴う人件費上昇分の経費の補助を行うものでございます。

次の、路線バス乗車券デジタル化支援事業(重点交付金)として620万8000円を追加しております。これは、物価高騰により運行経費が増大している路線バスについて、乗車券をデジタル化し、料金割引の補助を行うことで、乗客の利便性向上や利用促進を図るものでございます。

次の目13・物価高騰重点支援給付金事業は、八代市物価高騰重点支援給付金事業(重点交付金)として13億3493万円を追加しております。これは、食料品価格や光熱費等の物価高騰に対する支援として、対象となる市民に対し、1人当たり1万円の給付を支給する経費でございます。

以上で説明を終わります。

引き続き、八代市物価高騰重点支援給付金事業につきまして、企画政策課浅川課長より御説明をいたします。

○企画政策課長(浅川公利君) 皆様、こんにちは。「こんにちは」と呼ぶ者あり)企画政策課の浅川でございます。

八代市物価高騰重点支援給付金事業(重点交付金)につきまして、御説明をさせていただきます。

別紙、総務委員会資料をお願いいたします。

事業の概要でございますが、本年1月1日を基準日といたしまして、本市に住民登録のある市民に対し、1人1万円を支給いたします。なお、支給につきましては、原則として世帯主にまとめて支給をいたします。

想定対象者につきましては、約11万9000人、約5万9000世帯でございます。

給付方法につきましては、2つの方法を想定

しております。

まず、プッシュ通知型でございますが、これは本市が直近で実施をいたしました給付金事業におきまして、口座を把握している対象者について、申請不要で支給する方法でございます。

次に、確認書型でございますが、これはプッシュ通知型以外の市民について、振り込み口座確認書を送付し、紙での返送もしくはオンラインでの回答を審査し、支給を行う方法でございます。

委託業者選定でございますが、給付金を迅速かつ的確に支給するため、支給業務を包括的に業務委託することを想定しておりまして、高度な実務能力が必要となりますことから、公募型プロポーザル方式により選定することとしております。

今後の主なスケジュールでございますが、議決をいただきました後、速やかに公募を開始し、委託事業者選定後、3月末から4月上旬にかけ契約を締結、業務に着手したいというふうに考えております。

なお、初回の振込につきましては、プッシュ通知型が7月上旬、確認書型が7月下旬を想定しておりますが、少しでも前倒しできるよう、鋭意進めてまいります。

説明は以上でございます。御審議方よろしくお願いたします。

○委員長（木村博幸君） それでは、以上の部分について質疑を行います。質疑はありますか。

○委員（たーみー君） 最初の歳入のところ、国庫支出金が14億3030万円てなってるんですけど、さっき説明があったところで、実情に応じてというふうにお聞きしたんですけど、この14億円のほう、配分の根拠というか、何で14億円なのかなと思ひまして。

○財政課長（草西亮介君） 皆さん、こんにちは。（「こんにちは」と呼ぶ者あり）財政課の

草西と申します。どうぞよろしくお願いたします。

今、委員お尋ねの14億円の件でございますけれども、こちらの臨時交付金のほうが、総額で交付限度額としまして約15億4100万円という額が来てございます。そのうち、今回先議、今回の3月の定例会で提案させていただいてますのが14億円分と、残りは当初予算のほうで少し計上させていただいております。その枠の中で、広く、その予算計上を検討するという中で、できるだけ多くの、広くに、多くの方々に支援ができるようにということで、この今回の給付金というのを考えたところでございます。

それを11万9000人分ということで、それを1万円というようなことから、そういった額ということで事業を選定したというところで、そのほかにいろいろな、今計上しております事業を計上して、今回の額ということで計上させていただいたところでございます。

以上でございますが、よろしかったでしょうか。

○委員（たーみー君） この14億3030万円の内訳というか、その部分じゃなくて、なぜその14億3030万円が。（委員大倉裕一君「八代市が15億に配分された背景っていうか、多分そういった意味じゃない」と呼ぶ）そうです。すいません。

○委員長（木村博幸君） 手を挙げてください。

○財政課長（草西亮介君） 大変失礼いたしました。

交付限度額の算定につきましては、市の人口ですとか事業所数で計算式がございまして、それが積み上がったものが15億円というふうになってございます。

すみません、細かい数字が今、手元にございませんので、申し訳ございません。

以上でございます。

○委員長（木村博幸君） よろしいですか。

○委員（たーみー君） はい。

○委員長（木村博幸君） ほかにありませんか。

○委員（橋本貴喜君） 八代市物価高騰重点支援給付金事業の件で、議決後にプロポーザル公募を開始されて、契約締結3月末から4月上旬で、初回振り込みが7月上旬、3か月を取ってあるのは何か理由があるんですか。

○企画政策課長（浅川公利君） 今のお尋ねの件でございますが、契約後ということで、その後、例えばチラシ、お知らせをしたり、それから契約相手方とのデータのやり取りでしたりと、その準備の期間がこのくらい、過去の給付金の支給状況を考えて、こういうところ、7月上旬ぐらいかなというところで想定しているところでございますが、先ほども申しましたように、できるだけ速やかに支給ができるように、鋭意、業者とも打合せをしながら進めてまいりたいというふうに考えております。

○委員長（木村博幸君） よろしいですか。

ほかにありませんか。

○委員（蓑田由貴君） 買い物支援事業者支援事業のことなんですけれども、市内で移動販売を実施する事業者に対してということなんですけど、何か所かあるとは思いますが、この100万円を一つの、その何ですか事業所に全て差し上げるのかとか、ちょっと具体的に教えていただけたらと思います。

○地域政策課長（松本 亨君） 地域政策課の松本でございます。よろしくお願いたします。

今お尋ねの件でございますけれども、1か所の事業者さんに補助するというものではございませんで、現在、今、八代市内で我々が把握しております事業者さんが8者ございます。その8者の事業者さんに対して、例えば、週に坂本に何回行ってるのか、東陽に何回行ってるのか、泉に何回行ってるのか、ということで申請をさせていただいて、泉であれば幾ら、東陽であれば

幾らという金額は設定してありますので、その単価に対して何回行ったかということの掛け合わせて、それぞれの業者さんに補助金を支給するという形になりますので。

その8者さんプラス今回は平野部で実施されている事業者さんも追加するというので考えておりますので、プラスアルファあるかもしれませんが、全ての業者さんに補助をするということで考えております。

以上でございます。

○委員長（木村博幸君） よろしいですか。

○委員（蓑田由貴君） はい。

この、その買い物支援事業者支援事業は、もともと補正っていうか、足りない、通常でも補正されたりするんですけど、それとまたこの重点交付金とのこの補正の仕方っていうか、そういう違いはあるんですか。

○地域政策課長（松本 亨君） 特に当初予算での要求との違いというのはございません。

今回も令和8年度当初予算に要求をするのか、今回の重点交付金で要求するのかというところで検討しまして、こちらの重点交付金のほうで要求したということで、違いはございません。

○委員（蓑田由貴君） はい、分かりました。

○委員長（木村博幸君） よろしいですか。

ほかにありませんか。

○委員（たーみー君） 買い物支援事業者支援事業で、実際にその買い物支援、移動販売を利用されてる方の数っていうか、実績ってどれぐらいなんですか。

○地域政策課長（松本 亨君） 事業所の数は把握をしておりますけれども、実際にどういふ方が何人ぐらい利用されているかという数字は、我々のほうでは承知しておりません。

○委員長（木村博幸君） よろしいですか。

○委員（たーみー君） はい。

○委員長（木村博幸君） ほかにありませんか。

○委員（西 和明君） LPガス価格高騰対策

支援事業なんですけども、今、過去数回行われていて大変ありがたい政策だと思うんですけども、ただ、今なかなかLPガスの。

○委員長（木村博幸君） LPガスは経済企業委員会の管轄になります。

○委員（西 和明君） ああ、そう。ちょっと。（「歳入に関することだったら大丈夫です」と呼ぶ者あり）ああ、はい。（委員大倉裕一君「歳入。歳入に関することであれば大丈夫です」と呼ぶ）ああ、じゃあちょっと、本題と違いますね、はい。

○委員長（木村博幸君） ほかにありませんか。

○委員（たーみー君） 3番の路線バス乗車券デジタル化支援事業で、料金割引はどれぐらいの料金割引なのか。また、そのデジタルチケット化するというそもそものがどういうシステムで、どういうやり方なのか教えてください。

○地域政策課長（松本 亨君） まず、料金の割引についてでございますけれども、今回割引をしますのは市内の循環バスで使える回数券、これが1つでございます。ともう一つが、市内の路線バス全てで使えるフリー乗車券、この2種類を想定しております。

まず、回数券につきましては、現在15枚つづりで1000円で販売をしている乗車券があるんですけども、これを、この期間中は、まず紙で発行する分については100円の乗車券を18枚つづりで1200円と設定しております。これを200円割引いて、同じく、現行と同じ1000円で売るということで、15枚つづりのものが18枚つづりになるけども料金は同じですということ、1冊当たり200円の補助するということになります。

もう一つが、デジタルで発行する場合、デジタルで発行する場合は21枚つづりの乗車回数券を1400円で販売するべきところを1000円で販売しますので、400円の補助をする、ということになります。

続いて、フリー乗車券につきましては7000円で販売するところを、紙のフリー券の場合は1000円割引いて6000円で販売すると。それから、デジタルで発行する場合は7000円のところを5000円で販売するという、2000円の補助をするということで考えております。

続いて、システムといいますか、どんな使い方をするのかということでございますけれども、まず回数券につきましては、あるアプリを使って購入をしていただくんですけども、アプリ内で回数券を購入すると、自分のスマホに回数券が表示されるようになりますので、その回数券をバスに乗るときに運転手さんに見せて、そこで1回使ったということでボタンを押せば、回数券が1枚減っていくと、という形になります。

フリー乗車券につきましては、定期券と同じように、バスに乗るときに、車載の端末にQRコードを読み込むような形でピッとします。降りるときも同じピッとしますということで、普通の電子決裁のような形でフリー乗車券は使えるということになります。

以上でございます。

○委員（たーみー君） そのアプリっていうのは何ていうアプリなんですか。そして、あと、このフリー乗車券っていうのは1か月間とか期間があるのか、どういったものなんですか。

○地域政策課長（松本 亨君） まず、想定しておりますアプリの名前につきましては、RYDE PASSアプリというアプリになります。

これは既に九州産交さんとか、おれんじ鉄道とか、全国のいろんな交通事業者が導入しているもので、今回八代市を走行する産交バスさんは既に導入実績があるということで、こちらのアプリを使うということになっております。

フリー乗車券につきましては、1か月券と3

か月券がありますので、どちらも購入ができるということになります。

以上でございます。

○委員（たーみー君） その1か月券と3か月券は、金額とか差はあるんですか。

○地域政策課長（松本 亨君） 差はございません。1か月券の掛ける3ということで、3か月長く買えば安くなるということではございません。単純に1か月分なのか3か月分なのかということになります。

○委員長（木村博幸君） よろしいですか。

○委員（たーみー君） はい。

○委員長（木村博幸君） ほかにございませんか。

○委員（蓑田由貴君） 今回のこの国庫支出金で緊急で出ているので、全部繰越しになっているんですけど、その繰越しの来年度っていうか、いつぐらいになるのか教えていただきたいです。全て買物とか、この全部繰越しになっているのですね。いつぐらいになるのか。

○財政課長（草西亮介君） 今回全事業につきましては繰越しを来年度にいたしまして、精算等も含めまして、来年、令和9年の1月末までに完了することとなっております。

以上でございます。

○委員長（木村博幸君） よろしいですか。

○委員（蓑田由貴君） ありがとうございます。

○委員長（木村博幸君） ほかにありませんか。

○委員（たーみー君） 4番の八代市物価高騰重点支援給付金事業で、事業の概要の米印、原則として世帯主、まとめて支給するって書いてあるんですけど、このまとめて以外っていうのがあるんでしょうか。

○企画政策課長（浅川公利君） 同一世帯であれば、基本的に、原則世帯主に支給ということで、代理の方でも可ということで想定はしております。必ず世帯主というわけではなくて原則世帯主ですけれども、代理の方、例えば世帯主

の配偶者だったり、そういった例もあるかと。そこは特例といいますか、原則は世帯主ということで御理解いただければと思います。

あと、基本的には世帯ごとという形になりますが、ちょっと特殊なケースもあるかなというふうに想定してます。例えばDVだったり、そういった特殊なケースですね、そういったケースもあろうかと思っておりますので、そちらはまた特別に対応していきたいというふうに考えております。

以上でございます。

○委員（たーみー君） すいません、また八代市物価高騰重点支援給付金事業で、今までPay Payだったと思うんですけど、今回現金の給付にした理由とかがあってあるんでしょうか。

○財政課長（草西亮介君） 委員が今おっしゃられたとおり、以前はPay Payということでさせていただいておりましたが、Pay Payのほうが市内の方だけでなく市外の方も使えるというのもありまして、また、少し経費率も少し高いというところもございました。

そして、できるだけ広くということで考えたのが今回の現金給付ということで、このPay Payが使われてない方にも行き渡るようにということの視点で、今回こういった現金給付というものを考えたところでございます。

以上でございます。

○委員長（木村博幸君） よろしいですか。

○委員（たーみー君） はい。

○委員長（木村博幸君） ほかにありませんか。

○委員（大倉裕一君） 質問がそれぞれ出ておりましたけれども、買い物支援事業者支援事業（重点交付金）の中で、これまでは中山間地域限定という条件付でサービスをやられてきたというふうに認識をしておりますが、今回の繰越明許される事業の内容として、その条件が緩和されたのか、やっぱりその縛りがあるのか、その辺はどうお考えでしょうか。

○地域政策課長（松本 亨君） これまではおっしゃるとおり中山間地域に限定しておりましたけれども、今回の重点交付金では、限定は行いません。市内全域ということになります。

○委員長（木村博幸君） よろしいですか。

○委員（大倉裕一君） はい。

質問を変えますが、五家荘地域のごかぐるまです、人件費の上昇分ということなんですけれども、令和8年度の4月から年度末3月までの分を見込んだ人件費上昇分と理解していいのか、この人件費上昇分には何名の方の何の人件費なのか、そこをお聞かせください。

○地域政策課長（松本 亨君） まず、ドライバー1名分の人件費ということで、1年間分の人件費でございます。

今回、この上昇分と申しますのは令和4年度の人件費と、それから現在の人件費の差を、上昇アップ率を掛けまして算出しております。

毎年毎年、人件費が年々増加をしておりますので、令和4年度と比較した上昇分を今回掲上しているところでございます。

○委員（大倉裕一君） よく分かりました。

すいません、路線バスに今度なりますが、この割引のサービスっていうのは単年度で終わるんですか。それとも毎年このような交付金があればやるのか、市の自主財源で令和9年度もやっというふうな考えがあるのか。その辺りはいかがでしょう。

○地域政策課長（松本 亨君） このデジタルチケットにつきましては、交付金終了後も続けていただくように事業者さんとのほうとは今調整をしているところですので、デジタルチケット自体は続くことを想定しております。

ただし、割引分については今回重点交付金を充てておりますので、事業終了後は割引については実施しないところでございます。

今回なぜこの割引をするかと申しますと、まず1つは、当然、物価高騰で公共交通利用者の

負担を軽減するというのが1つございますけれども、もう一つは、デジタル化することによって事業者の生産性を上げて、事業者の負担を下げていくということもございますので、今回の交付金を活用して、まずはこのシステムの改修などを行って、あとは事業者さんの努力で続けていっていただきたいという趣旨でございます。

○委員長（木村博幸君） よろしいですか。

○委員（大倉裕一君） はい、よく分かりました。

最後に、物価高騰重点支援給付金ですけど、これまでのサービスをいろいろと反省されて、今回現金給付に、新たに、多分取組だろうというふうには認識しとつとですけど、よく決断されたなというふうには思っておりますが、が、がなんですよ。

プロポーザル方式で何かされるっていう話ですよ。そのプロポーザル方式、委託、委託かな、に委託費用って幾らかかるんですか。幾ら見込んでいらっしゃるんですか。

○企画政策課長（浅川公利君） 今回予算要求の段階では1億1500万円余ということで要求をさせていただいておりますが、今後プロポーザルを実施する中で、価格のほうは、恐らく下がるのではないかなというふうには見込んでおります。

以上です。

○委員長（木村博幸君） よろしいですか。

○委員（大倉裕一君） 職員さんたちが業務多忙な中に、こういった国の制度によって、何て言うかな、仕事が増えていくっていうのは、やっぱり大変なところがあるだろうなというふうには思うところはあります。ですが、今回の現金給付って一番簡素で、市民にとって給付率が高い内容になってると思うんですよ。職員さんにも優しい仕事のメニューだろうと思うんですが、1億1500万円もかけて公募型で委託をするというところに、何となくまだ引っかけり

があるんですね。高度な実務能力とかって表現されてるんですけど、どんな高度な実務能力が必要になるんでしょうか。

○企画政策課長（浅川公利君） 業務は多岐にわたるかと思いますが、特にシステム関係ですね。この支給をするに当たって、その会社独自のそういったシステム構築だったり、もう新たに、新たにといいますか、既にシステムを持ってらっしゃるところもあるかと思いますが、そういった部分が市のデータとの連携だったり、そういったところがございますので、そういった部分の、特にそのシステム分野での高度なところで、今回委託に当たっては、受託能力があるかということであろうかと思います。

以上でございます。

○委員長（木村博幸君） よろしいですか。

○委員（大倉裕一君） やっぱり現金給付にしても、例えば前回の P a y P a y とかっていうのにしても、1回システムを組むわけですかね、組んで対応していかないと、やっぱ漏れたりとかいろいろそういったのがあるということですか。

○企画政策課長（浅川公利君） これまでの P a y P a y、キャッシュレスだったり、そういった今回の現金給付、過去の現金給付もなんですが、市のほうでシステムを組むというわけではございませんで、過去に全て委託業者のほうでシステムのほうを組んでいただいているというところでございます。

以上です。

○委員長（木村博幸君） よろしいですか。

○委員（大倉裕一君） すいません、しつこくって。高度な実務ってというのは、じゃあ、どういったところが高度な実務ですか。

○企画政策課長（浅川公利君） 今回プロポーザルということで、委員のほうから、高度なという実務の部分をとということでお尋ねでございますが、もともとこういった業務自体が入札自

体に適さないというふうに考えておきまして、そういった中で過去の経験だったり、高度なというのはそういった部分、それから、進めていく中で提案を受ける中で、そういったより短縮もしくは効率的な方法をしているかというその部分を図る意味でも、今回プロポーザルということで考えておりますが、そこが高度なというところで判断できればなというふうには考えております。

○委員長（木村博幸君） よろしいですか。

○委員（大倉裕一君） はい。

○委員長（木村博幸君） ほかにありませんか。

○財務部長（松川由美君） ちょっと補足説明をさせていただきたいと思います。

先ほど来から経費が1億1500万円ということで、1億円以上かかるということで、かかるなっていうふうな印象を皆さんお受けになられるかと思いますが、これまでうちのほうで実施しておりました P a y P a y とかのキャッシュレスポイントの場合の経費とかは17%ぐらいしておりました。お米券とかだったら2割ぐらい、20%ぐらいあるというふうな情報がニュースとかでも流れていたかと思いません。

今回1億幾らということで現金給付の場合は今12%ぐらいで見積りいただいてまして、12%ぐらいの経費で収まっているというような状況ですので、じゃあ、これでいこうかというようなところでいたしたところです。

加えて他市の状況見ますと、熊本市さんあたりでいくと、非課税世帯のほうに1世帯1万円とかっていうのでされてるんですけど、経費率は28.9%とか、他市の状況でも2割、20%を超えてるような状況ですので、うちとしては業者さんのほうにも頑張っていただけるのかなというふうには思っているところでございます。

以上です。

○委員長（木村博幸君） 今のでよろしいですか。

○委員（大倉裕一君） はい。

○委員長（木村博幸君） ほかにありませんか。
（「なし」と呼ぶ者あり）

○委員長（木村博幸君） なければ、以上で質疑を終了します。

意見がありましたらお願いいたします。ありませんか。

○委員（金子昌平君） 路線バス乗車券デジタル化支援事業の中で、乗車される方で高齢者の方が多いような気がしますので、デジタル化を進めていくなれば、優しい御案内といたしますか、その点をよろしく願いしておきます。

以上です。

○委員長（木村博幸君） ほかにありませんか。
（「なし」と呼ぶ者あり）

○委員長（木村博幸君） なければ、これより採決いたします。

議案第1号・令和7年度八代市一般会計補正予算・第13号中、当委員会関係分については、原案のとおり決するに賛成の方の挙手を求めます。

（賛成者 挙手）

○委員長（木村博幸君） 挙手全員と認め、本案は原案のとおり可決されました。

以上で付託されました案件の審査は全部終了いたしました。

お諮りします。

委員会報告書及び委員長報告の作成については、委員長に御一任願いたいと思いますが、これに御異議はございませんか。

（「異議なし」と呼ぶ者あり）

○委員長（木村博幸君） 御異議なしと認め、そのように決しました。

以上で本日の委員会の日程は全部終了いたしました。

これをもって総務委員会を散会いたします。

（午前11時39分 閉会）

八代市議会委員会条例第30条第1項の規定により署名する。

令和8年2月20日

総務委員会

委員長